

いばきた

デザイン  
プロジェクト

IBA-KITA  
DESIGN  
PROJECT



茨木市

茨木市 都市整備部 北部整備推進課

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13

電話：072 (620) 1609

ファックス：072 (620) 1730

メール：hokubuseibi@city.ibaraki.lg.jp



次なる  
茨木へ。

2019/4 — 2020/3

茨木市里山センター 編



## 茨木市北部地域の 課題解決を目指して。

茨木市は、大阪市や京都市へアクセスしやすく、大学・高校をはじめとする教育機関、ショッピングモール、商店街、飲食店などの商業施設も充実していることから、関西圏の中でも「住みよいまち」「利便性の高いベッドタウン」として評価が高く、茨木市全体の人口推移は毎年増加傾向にあります。一方、北部山間地では、若者を中心とする人口流出と農林業従事者の高齢化により、産業や環境保全の停滞が続いています。特に問題となっているのが、山間地の「深刻な過疎化」です。茨木市の全面積の約半分が山間地にあたりますが、市街地の人口に対して約1%という統計もあります。

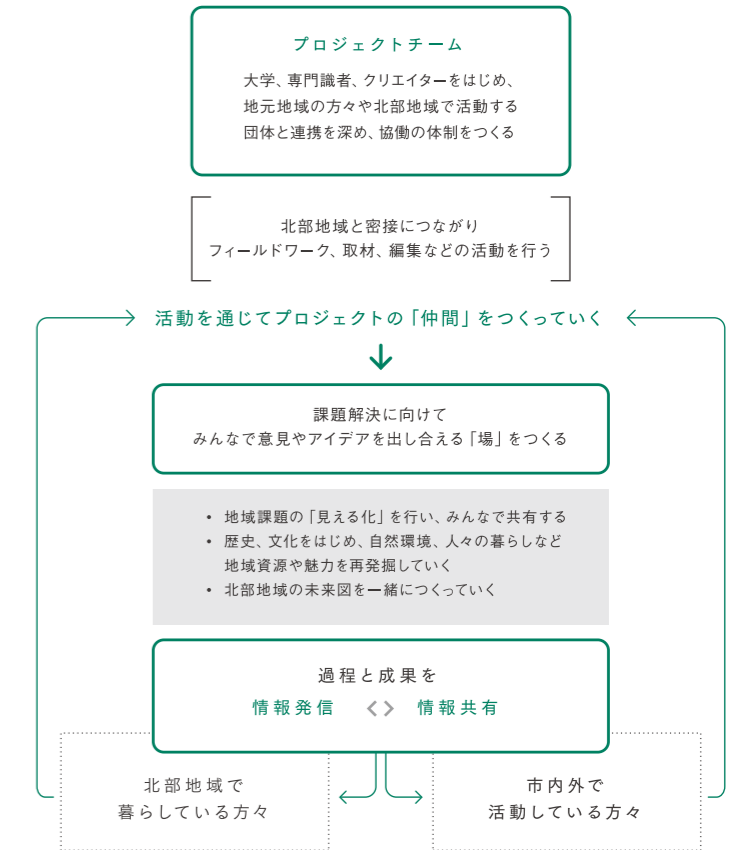
いばきたデザインプロジェクトでは、このような課題解決に向けて、地元で暮らしているの方々をはじめ、市内外のさまざまな人たちが北部地域に関心を持ち、みんなで考え、一緒に取り組んでいくことができるフィールドを創出していきます。

行政と地元の方々との連携、多分野の人たちとの協働を推進させ、みんなと一緒に課題解決へと向かっていきたい。

茨木市北部地域の課題解決に向けた取組みを円滑に推進させ、着実に成果へとつなげていくためには、地元で暮らす方々と行政との親密な連携や、地域づくりに関心の高い多分野の人たちとの協働の体制づくりが重要です。いばきたデザインプロジェクトでは、これらの三者が、しっかりとチームを組み、地域資源や魅力の掘り起こしをはじめ、フィールドワークによるデータベース化、情報の可視化と発信、ネットワーク構築を行っていきます。そのプロセスで得られたノウハウを最大限に活かし、さまざまな人たちが使いこなすことができる「新しい仕組み」をデザインしていくことを目的としています。さらに、プロジェクトの活動が市内外の多くの方々々に伝わり「参加することが楽しい!」「関係を持つことが楽しい!」と感じていただけるフィールドづくりを実践し、活動人口の拡大に寄与していきたいと考えています。

いばきたデザインプロジェクトは、2018~2020年度の3年間を実践期間としており、期末ごとに冊子を発行します。本冊子は2019年度版にあたり、「茨木市里山センター」を対象とした課題共有、活動の過程や成果を編集したものです。

課題解決に向けた「仕組み」をデザインする。





里山サポートネット・茨木  
代表

白石 泰久さん

自分たちの里山を自分たちで守っていく  
「新しい里山センター」を創出したい。

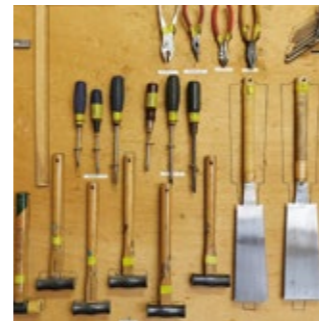
茨木市役所を定年退職した後、2011年より「里山サポートネット・茨木」の代表を務めることになりました。市役所では、農林行政に携わっていたので、北部地域における里山の変遷、自然環境保全や農家の方々が抱える課題に精通しており、里山センターの開設についても力を注いできました。所属団体の活躍は目覚ましく、全国に誇ることができる森林ボランティアの拠点へと成長を遂げています。一方、近年の少子高齢化、若年層の流出による担い手不足が深刻化しており、これまで培ってきた成果や実績、ノウハウを活かした上で、さらに抜本的な課題解決の方法を導いていかなければなりません。そのためには、ボランティアが主体になるだけではなく「自分たちの里山を自分たちで守っていく」という自助の想いを育てていただき、みなさんを支えていくための「しくみづくり」が大切だと考えています。農林業の振興をはじめ、歴史、文化、教育、レクリエーションなど、里山をコンセプトにした複合的な「場」を生み出していく。行政と地域、企業や団体と連携し合いながら「新しい里山センター」の構想を温めていきたいと思っています。

白石 泰久(しらいし やすひさ)

1971年茨木市役所に入庁、在職期間中の25年間農林行政に携わり、主に山間部の圃場整備をはじめとする農業生産基盤や生活環境基盤の整備に従事した。また、「森林サポーター養成講座」の開講や「茨木市里山センター」の設置に関わった。2011年退職後、里山サポートネット・茨木の代表を務める。

## 茨木の貴重な資源である里山環境を守る ボランティア団体の活動拠点。

茨木市北部地域には、美しい山々に包まれた大自然、豊かな里山の風景が広がっています。しかし、少子高齢化、農林業従事者の担い手不足といった深刻な課題を抱え、里山環境の保全、維持管理を継続していくことが困難な状況です。「茨木市里山センター」は、茨木の貴重な資源である里山、森林を守るために集結したボランティア団体の活動拠点。平成19年に設立された「里山サポートネット・茨木」は、センターの運営管理をはじめ、さまざまな活動を通じて、市民の方々が自然と親しむ機会を創出し、環境保全に関する意識の向上を目的としています。



北部地域の課題である「自然環境保全」と向き合い、豊かな里山、美しい森林を次世代へとつなげていくために。

茨木市北部地域の自然環境における、さまざまな課題に対して「社会全体で環境を守らなくてはならない」という市民の機運が高まり、ボランティアによる取組みが活発化してきたことを受け、平成17年に茨木市が主催する「森林サポーター養成講座」を開講。平成19年、廃校となった春日丘高校泉原分校跡地を活用し、ボランティアの人材育成をはじめ、里山、森林保全活動の拠点施設として「茨木市里山センター」が開設されました。

### 里山サポートネット・茨木

里山サポートネット・茨木は、茨木市内の里山・森林保全、環境教育ボランティア団体、地元自治会、大阪府森林組合、茨木市林業推進協議会などの関係団体で構成された連合体。茨木市里山センターの運営管理、市民参加による環境保全活動の推進・サポート事業をはじめ、各種イベントや講座・講習の開催、環境教育支援、木材加工・販売などを行っています。

### ■ 人材育成を目指す「森林サポーター養成講座」。

茨木市里山センターでは、環境保全に関心が高く、ボランティア活動への参加に意欲的な方々を対象に、毎年7月から12月の半年間、茨木市主催による「森林サポーター養成講座」を開催。里山の文化、自然、森林のしくみを学ぶ講座をはじめ、活動地における体験実習などのカリキュラムを実施し、保全活動の知識や技術、ノウハウを指導しています。後半には、里山センターに所属する各ボランティア団体からの活動紹介を行い、次世代の人材育成へとつなげていきます。

### ■ 市民と里山をつなぐ「場」を提供。

里山センターには、各種イベントや講座・講習、ワークショップなどを行うことができる「研修室」「木工室・木工機械室」「木工工作室」などの設備を充実させています。気軽に森林の散策ができる「自然観察林」、里山の文化を体験する「炭焼き窯」。また、グラウンドには「バーベキューコーナー」が設けられ、休日になると、たくさんの利用者で賑わいます。自然との触れ合いを通じて、里山・森林の大切さを実感し、環境保全に関する意識を高めていくための、市民と里山をつなぐ「場」を提供しています。

### ■ 年間を通じて多彩なイベント、講座・講習を開催。

#### 【茨木里山まつり】

約2000名の人々が集まる、年に一度の恒例イベント「茨木里山まつり」。地元特産品の販売やコンサート、飲食ブースの出店をはじめ、さまざまな楽しいプログラムを用意し、地域が一体となって里山を盛り上げていきます。

#### 【環境教育イベント】

茨木市内の保・幼・小学生を対象に、間伐材や木の実を使った木工・工作の指導を行っています。また、里山センターの裏山にある自然観察林の散策、炭焼き窯の見学など、自然との触れ合いを通じて環境を学んでいきます。

#### 【自然工作教室】

里山センターの木工工作室を使って、月に一度開催される「自然工作教室」。四季に合わせたテーマのもと、里山の樹木や木の実などの自然素材を使って、自由な発想で自分だけのオリジナル作品をつくります。

#### 【炭焼き体験講座】

里山センターの敷地内に設営された炭焼き窯を使った全4回の「炭焼き体験講座」。炭材の切り出しから炭が焼けるまでを体験し、木炭や木酢液の活用方法をはじめ、炭焼きの歴史や文化、里山での暮らしについて学ぶことができます。

#### 【ボランティア団体の講習会】

チェーンソーや刈払機の取り扱いをはじめ、安全に森林保全活動ができるよう技術指導を行っています。また、森林保全活動における基礎的な講習を受ける機会のない方を対象とした「森林ボランティア安全講習会」も実施しています。

#### 【機械安全講習会】

DIYや木工クラフトに必要な電動丸鋸・糸鋸盤、ボール盤、電気カンナ、トリマー、ベルトサンダー、電動ドリルなどの機材を安全に扱うために、里山センターの木工機械室を利用して「機械安全講習会」を行っています。



## 茨木里山を守る会

地元地域との連携・協働の体制を築いて「地域づくり」に貢献する。

平成17年に開始された茨木市「森林サポーター養成講座」の1期生が修了と同時に会を発足。会員数100名、地元地域から10名以上が入会している。現在の活動地は里山センターを拠点に、千提寺地区、銭原地区、竜王山等約30ha。千提寺地区においては、「隠れキリシタンの里」としての景観保全、新神高速道路開通に伴うクルス山の整備を行うなど、自治会をはじめ、地元住民との緊密な連携を図りながら活動を実施中。また、一般市民団体への啓蒙活動にも積極的に取り組み、専用の実習林において、年間のべ250名程度の間伐体験指導や大阪府アドプトフォレスト活動の里山整備支援などを行っている。



茨木里山を守る会  
会長

佐野 毅さん

地元の方々と交流を深めていき、  
地域に愛される森をデザインしていきたい。

茨木里山を守る会の活動コンセプトは「森のグランドデザイン」。5年、10年先の森林、あるいは地域の景観を、どのように創造していくべきかという命題を軸に活動を続けています。そのためには、地元の方々と協働を欠かすことができません。日々の生活における身近な環境課題から、地域資源としての里山への想い、あるべき将来ビジョンを共有し、一緒に取り組んでいくことができる計画性と仕組みづくりが重要となります。地元の方々が積極的に活動へと参加して下さっていることは勿論、自治会との意見交換やプレゼンテーションの場を継続的に設け、お互いの交流を深めていく。また、整備を行ったエリアに対して「景観が見違えるように美しくなった」と実感していただき、信頼関係を築いていくことが大切だと考えています。一步一步、着実に成果を残していくことで「もっと魅力のある森林にしたい」という機運が湧き上がります。このような経験やノウハウを行政課題である地域再生に活用していただき、地元、行政、森林ボランティアがひとつになって、北部地域全体をグランドデザインしていくための努力を惜しまない覚悟です。

佐野 毅(さの つよし)

民間企業が保有する水源涵養林の保全作業を退職時から10年間携わり、又同時に入会した「茨木里山を守る会」で13年目となる。

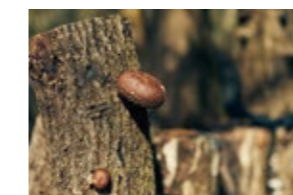




## もり 茨木ふるさとの森林づくり隊

人工林の課題解決を主眼に据え、25年以上にわたって活動を継続。

林業従事者の後継者不足によって里山が荒廃し、その重大さに気づいた市民が林業支援と里山再生を目的に平成6年設立。人工林の間伐をはじめとする「育林」が活動の中心。最近問題となっている「侵入竹」の除伐作業も行う。銭原の「茨木市野外活動センター」では、設立当初から、キャンプ場の利用者が安全で楽しく自然体験ができるように、立枯れ木や倒木の整備作業などの支援活動を実施。また、平成27年より、大阪府立大学工業高等専門学校とチームを組んで、間伐材の採取、製材作業を通じての体験学習、伝統工法による卒業制作のサポートを行っている。



茨木ふるさとの森林づくり隊  
代表

### 天保 好博さん

培ってきた知見やノウハウを活かして、  
森林の「あるべき姿」を見出していきたい。

今から4、50年前まで、茨木市北部の山は、アカマツが生い茂る森林で占められていましたが、さまざまな環境の変化、特に「松くい虫」の被害拡大に伴って、山の荒廃が進行していきました。そこから、行政主導による「拡大造林」の動きが活発化し、この際に植えられたのがスギやヒノキ。このようにして「人工林」が拡大していくこととなりました。人工林が自然にできた天然林と根本的に異なるのは、間伐などの維持管理を継続的に実施することを前提に植えられた事です。平成6年「茨木ふるさとの森林づくり隊」発足時には、安価な輸入材の普及、あるいは少子高齢化による林業従事者不足によって、間伐をはじめとする手入れが行き届かず放置されている状況でした。このままでは、陽の当たらない暗い森林が増え、やがて土壌が痩せ、治水・治山の面でも危険な状態に陥ってしまう。そのような課題意識に共感してくれる有志の人たち、山主の方々とともに取り組みをはじめました。これからも活動を続けていながら、行政や地元住民、環境保全に関心の高い地域外の人たちに、私たちの知見やノウハウを伝え、茨木における森林の「あるべき姿」を見出していきたいと考えています。

天保 好博(てんぼ よしひろ)

大学で森林生態学を専攻。「茨木ふるさとの森林づくり隊」の他に、茨木市環境教育ボランティア、茨木市環境審議会委員など茨木市を中心に活動している。



## 車作里山倶楽部

安威川ダム建設を契機とし、周辺地域の環境保全・維持管理に取り組む。

令和4年度に完成を迎える安威川ダム建設に伴い、平成13年に地元自治会、市民団体、大阪みどりのトラスト協会、大阪府、茨木市からなる「車作の森・保全協議会」の設立を契機とし、平成17年に市民ボランティアと地域住民によって発足。ダムが完成することによる「地域の賑わい創出と自然環境保全」両面の重要性を見据えた活動を継続的に実践している。活動地は安威川ダム周辺地域。人工林や竹林、雑木林の整備をはじめ、山菜の採取、果樹や椎茸の栽培といった「里の恵み」の継承を行う。また、希少な野草「キツネノカミソリ（ヒガンバナ科）」の群生地での再生保護活動にも積極的に取り組んでいる。



車作里山倶楽部  
代表代行

### 榎山 信博さん

地域と行政が一体となって、  
車作の地域資源を守っていく。

車作里山倶楽部は、安威川ダム建設に伴い変化が予測される自然環境、特に動植物に与える影響を見据え、平成13年、車作地域の住民と大阪みどりのトラスト協会が中心となって発足に至りました。活動の結果、希少な野草「キツネノカミソリ」の群生が出現しました。また、下音羽川での水生動物の観察、溪流遊びや、その上流にある江戸時代の産業遺産「権内水路」の見学を交えた観察会などを開催し、多くの方々に里山の豊かな自然を楽しむ機会を提供することができました。しかし、残念ながら、現在、キツネノカミソリは鹿の食害に遭い壊滅状態です。再生復活には、相当な時間が必要ですが、活動を継続していきます。また、近年の台風や集中豪雨などの自然災害により、里山が大きな被害を受けています。森林の十分な維持管理が出来ず、保水機能が劣化し、倒木や土砂崩れといった被害が深刻化しています。今後も、行政や地元自治会、地元山林所有者と協力し、一体となって里山の保全に努めていきたいと考えています。さらに大阪府、茨木市が推進する「安威川ダム周辺整備事業」と連携を深め、市民の憩い・楽しみ・学びの「場」の創出に微力ながら貢献できたらと思っています。

榎山 信博（はげやまのぶひろ）

島根県生まれ。吹田市在住。平成20年3月車作里山倶楽部に加入。椎茸・たけのこ・柿など山の恵みと山で食べる自作の弁当が最高の楽しみ。



## 茨木バラとカシの会

自然を愛する仲間たちが交流し、活動を通じて自然の大切さを伝えていく。

平成11年に発足し、活動メンバーは「認定NPO法人シニア自然大学校」の修了生で構成。「自然との触れ合い」をテーマに、メンバー同士の交流を図る月例会活動と自然環境に関する調査、研修、環境教育支援などの社会貢献活動を行う。年間を通じて「幼小出前授業」「里山センター自然工作教室」「自然に親しむ探検講座」をはじめとする多彩な講座やイベントを数多く実践し、自然を愛する仲間づくりに取り組んでいる。その功績が認められ、平成30年に環境大臣より「地域環境保全功労者表彰」を授与される。新しい活動としては、新名神高速道路の開通に伴い、NEXCO西日本によって整備され、茨木市に移管された「千提寺ピオトープ」の観察、調査を行っている。



茨木バラとカシの会  
会長

太田 仁さん

「自然が大好き」という想いを、  
次世代の人々に継承していきたい。

茨木バラとカシの会は、「認定NPO法人シニア自然大学校」の修了生で構成され、自然を愛する人たちが、さまざまな活動を通じて、自然と触れ合い、知識を深め、仲間たちと交流することを目的としています。また、自然の大切さを次世代につなげていくために「出前授業」や「自然工作教室」など、行政、教育機関との連携による環境教育も積極的に行っています。私たちの「自然が大好き」という想いが伝わり、みんなが一緒になって、思いっきり自然の中で遊ぶ。「勉強」ではなく「体感」することによって、子どもたちの自然に対する意識が大きく変わっていきます。北部地域は、市街地から10キロほどの距離に大自然が広がっています。美しい山々や森林を存分に楽しみ、植物、野鳥、昆虫などの豊かな生物多様性を発見することができる。このような絶好のロケーションを活かした「自然観察会」や「自然体験ツアー」などを定期的実施していますが、茨木市内に暮らす、もっと多くの方々に知っていただき、自然を体感する機会を増やしていきたいですね。そして、行政や地元の方々とともに、この恵まれた自然環境を地域資源としていくための取組みを、さらに進めていきたいと考えています。

太田 仁（おおた じん）

1946年5月中国の太原市生まれ。2008年12月茨木里山を守る会入会。2010年4月茨木バラとカシの会入会。同年5月退職し、ボランティア活動に専念。2011年5月里山サポートネット・茨木副代表、2012年4月茨木バラとカシの会会長に就任し、現在に至る。





## 鉢伏山森づくりの会

鉢伏山を活動拠点とし、市民参加型の「開かれた森づくり」を目指す。

平成19年に彩都西地区で「大阪府植樹祭」が開催されたことを機に、岩阪自治会や彩都住民たちが、鉢伏山周辺における里山景観保全の重要性を強く感じ、平成22年、茨木市と岩阪自治会との間で「鉢伏山地区 茨木・ふれあいの森づくり」里山保全活動実施協定を締結。同年、「鉢伏山森づくりの会」を発足させ活動を開始する。鉢伏山を中心とした里山林の保全をはじめ、里山景観の整備、樹木の健全な育成、多様な生き物の環境保護などを実践。自治会や地元住民、さらに地域外の人々による市民参加型の「開かれた森づくり」を目指している。



鉢伏山森づくりの会  
会長

### 眞並 恭介さん

みんなでアイデアを出し合い、  
一緒になって里山を再生させていく。

鉢伏山は、多数の地元住民が所有している共有山です。鉢伏山森づくりの会が管理を担っており、森林の保全は勿論、鉢伏山がどのような場所になっていくべきかを、みんなで考え、アイデアを出し合いながら、さまざまな取組みにチャレンジすることができます。将来へのビジョンは、市民の方々が気軽に遊びに来て、景観を楽しみ、自然観察や里山体験ができる「開かれた自然公園」にすること。標高299mの山頂からは、大阪の市街地や生駒山、和歌山までを眺めることができますが、かつては神戸港までを望むことができました。生い茂った高木を整備して360度のパノラマ眺望を取り戻していきたい。さらに、多様な植生や生物にとっての持続可能な環境デザイン、四季を感じさせる木々の植樹、新しい登山道づくりなども構想しています。彩都西の住宅街から歩いて15分の距離にある鉢伏山。私たちの活動を知り、一緒になって森をつくり、環境教育やレクリエーションのフィールドとして活用していただく。そのように、みんなで「山をシェア」していくことによって、地域の方々にとっての資産価値につながってくると、うれしいですね。

眞並 恭介(しんなみ きょうすけ)

粟生岩阪生まれ。茨木高校山岳部で山登りを始める。現在、岩阪自治会長。ノンフィクション作家。『牛と土 福島、3.11その後。』で、講談社ノンフィクション賞、日本ジャーナリスト会議賞(JCJ賞)を受賞。



## 北辰窯炭焼き倶楽部

昔ながらの里山の暮らしを継承し、「自然の循環」を目指して活動続ける。

平成23年、茨木市里山センターが主催する「炭焼き体験講座」の受講生有志によって結成。センター敷地内に設営された炭焼き窯を使って炭づくりを行う。昔ながらの里山の暮らしを継承し、間伐作業から炭焼き、利活用の提案、販売といった「自然との共生」「自然の循環」を目指して活動を展開している。市民参加による炭焼き体験講座の支援を継続的に実施。また、茶の湯炭、花炭、煤竹、木工品づくりをはじめ、最近では「竹炭枕」を開発するなど、培った技術を活かし、自由な発想とアイデアで、炭の実用性や魅力、楽しさを多くの人たちに知ってもらい機会づくりを実践する。



北辰窯炭焼き倶楽部  
会長

### 橋爪 新太さん

炭焼き技術を守り継ぎ、  
「里山の暮らし」を再現させる。

茨木市北部地域では、美しい山々や棚田をはじめ、豊かな自然に包まれた里山の風景を眺めることができます。しかし、少子高齢化や農家の担い手不足など、時代の変化によって、昔ながらの「里山の暮らし」が消えつつあります。かつては、農地の裏山に森林があって、山菜の収穫や薪を集めるために人が入り、同時に間伐などの山の手入れを行っていました。炭焼きも、そのような里山での暮らしのひとつ。農閑期に炭を焼いて燃料にしたり、都会へ売りに行って生活の糧にしていました。里山の暮らしとは、自然の中で全てを循環させていく知恵。北辰窯炭焼き倶楽部は、間伐から炭焼き、販売を通じて、里山の循環を再現させていくという試みを実践しています。炭焼き体験講座の開催や里山センター内のバーベキュー場で、私たちが販売している炭を使っていたり、炭窯を見学に来られたり。少しでも里山の知恵に触れる機会を生み出していきたい。そうすることで、都会の人たちに、人と自然との多様な関わり方について、あるいは、山を守ることや自然を循環させることの大切さを伝えていきたいと考えています。

橋爪 新太(はしづめ あらた)

1975年より茨木市に在住。定年退職後、炭焼き体験講座を受講し、2011年に北辰窯炭焼き倶楽部を結成して会長を務めている。